

土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会

(第24期・第6回)

議事要旨

日時 令和元年5月20日(月)10:00~12:10

場所 日本学術会議5階 5-A会議室(1)

出席者(敬称略) 天野、池内、池田、沖、城所、嘉門、小松、田井、道奥、持田、
望月、安福、吉野、戸田

参考人:九州大学工学研究院附属アジア防災研究センター 三谷泰浩 教授

オブザーバー: 国土交通省職員 数名

議事概要

- 1) 「第5回気候変動と国土分科会」の議事要旨(資料1)について、メールで事前に確認済みではあるが、再度確認した。
- 2) 三谷参考人から「東峰村の復興活動」について、資料2の配布資料をもとに話題提供をいただき、その後、意見交換を行った。意見交換の主な内容(抜粋)は以下のとおり(発言者の敬称略)。

(小松) ①データ、情報、知識だけでなく知恵が必要ではないか。②大規模化した土石流の挙動の直進性は教訓として含まれているか?→(三谷)復興計画の中に反映されていない。③伝承館の継続は、防災だけではもたない。人を呼び込むための様々な工夫が必要だ。→(三谷)大学の教員の講義が組み込まれた夏の小学生対象のサマーキャンプ、地元の特産品の販売、レストランの出店などを進めている。

(嘉門) ①九大からの復興支援団がスムーズに受け入れられた理由は何か?→(三谷)熊本地震時の熊本大の事例を参考にした。研究のための活動ではなく支援のための活動であることが理解された結果、住民の信頼を得ることができた。また活動は3年間に限定することを表明している。このため後継者の養成が課題となるが、すでに準備できている。②リスクコミュニケーションを図ろうとしても全員が参加するわけではない。また方向が違う人達もいる。どのような工夫をしたか?→(三谷)不参加の人のためにも伝承館を設置した。例えば伝承館に昼間に主婦に集まってもらうような取り組みを行った。

(池田) H24年の災害もあり、災害が多い地域であるが、復興計画の中で、地域の持続性をどのように考えているか?→(三谷)近々予定されている総合計画の改定の中で防災・減災や復旧・復興の視点を明確に位置づけることを考えている。なお村としては、高齢化が進んでおり、若い人を戻したいとの思いがある。②地域の再編などは考えているか?→(三谷)考えていない。強いて言えば災

害復興住宅の建設ぐらいか。

(持田) 災害にあつて破壊された住宅や住まいの再建についてはどうか?→(三谷) 半壊の住宅は取り壊して公営住宅に移っている世帯が多い。原形復旧が基本で改良復旧にいたるところは極めて少ない。復旧工事にあたっては全体をコーディネートすることが大事であるが、どうしても早く復旧することに主眼がいつてしまう。②支援団に建築関係の人も参加しているか?→(三谷) 建築や街づくりの専門家も入っている。

(望月) 1次避難所は具体的にどのようなものか?→(三谷) 個人住宅や個人の駐車場を1次避難所とした。住民と一緒に選定し、安全性の確認は大学が行った。行政はその結果に追随。

(安福) 自然との共生を意識した復旧・復興は考えられているか?→(三谷) 防災力との兼ね合いは難しい。護岸工事などで玉石を用いて親水性をもたせたりしている。山では伐採が進んでいることから、川べりに河畔木を持ってきたりしている。

(沖) 命を守る防災が本当に大事と思っている人の割合はどの程度か?→(三谷) 3割~4割は防災を真剣に考えている。自営業者は自助意識が高い。また地域コミュニティーの密接さが、リスクコミュニケーションの向上につながる。

(城所) 復興計画の中で、住民の行動そのものを変える、村のあり方を変えるという視点が必要ではないか。

(持田) 人間の命だけでなくペットのことを意識しているとのこと。つまり、住宅や財産にも重大な関心があることにつながると理解した。

(池内) アンケート結果で、情報を集めた人ほど逃げなかったのはなぜか?→(三谷) 分析中である。

3) 望月委員長から、嘉瀬川・六角川流域及び松浦川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会が発表した「平成30年7月豪雨の課題と検討・研究の視点について」の資料の説明がなされた(資料3)。今後の検討・研究課題が一覧表にまとめられている。(資料は、佐賀低平地への適応策実装検討小委員会での議論を踏まえて作成されている。)

4) 望月委員長から、「今後のとりまとめと進め方の方向性について」の資料の説明がなされた(資料4)。当日午後の土木工学・建築委員会全体会での当分科会の紹介資料として用いられるものである。今後、提言の作成に向けて議論を進めていく。

5) 小松委員から「お金をかけずに今すぐできる(すべき)適応策」について、資料

5の配布資料をもとに話題提供をいただき、その後、意見交換を行った。意見交換の主な内容（抜粋）は以下のとおり（発言者の敬称略）。

（持田）ダムの有効活用において、電力会社と国との調整などはどのようになるであろうか？→（小松）国交省がイニシアチブを持つことになろう。

（望月）真備町の事例などを見ていると、緊急避難場所として人工的に高台をつくることも必要ではないか。→（小松）そういう方法を含め、近くに緊急避難場所を設置することは重要である。

6) 次回の日程など今後については幹事団で調整する。